

ふれあい通信 平成26年9月号



発行：国保坂下病院広報委員会 TEL 0573-75-3118

ホームページアドレス <http://sakashita-hp.jp/>

「ふれあい通信」は坂下病院ホームページでも御覧いただけます

連載こくほ四方山話

病院長 高山 哲夫

(109 糖尿病連携手帳)



糖尿病協会から発行されている「糖尿病連携手帳」と云うノートがあります。皆さんがどんな薬を服用され、あるいはインスリンが使われ、現在の血糖がどれくらいで、グリコヘモグロビン(A1C)が現在どのくらいの値を示しているのかが記載されています。さらに、心臓の状態、動脈硬化の状態や眼底変化がどうなのかを記載する項目もあります。このノートを見れば、ノートの所持者の糖尿病が、現在どんな状態になっているのか一目でわかるようになります。

現在、第3版が提供されています。豊かな社会の反映として、現在世界的に糖尿病患者さんが増えています。日本も例外ではありません。糖尿病は、単に血糖が上がりに尿に糖が出るだけの病気ではありません。血管の老化や神経の障害もたらされます。その結果、脳血管障害、網膜症による失明、心筋梗塞、脂肪肝、糖尿病性の腎障害、血管閉塞による足の壊疽などの合併症を引き起こします。脳血管障害は様々な生活上の機能障害を引き起こします。心筋梗塞は、最も生命の危険に直結する病

気です。最近の人工透析を受けられる患者さんの殆どが糖尿病であることはデータで示されています。足の壊疽は下肢切断に直結し、脳血管障害による麻痺、網膜症による失明同様、生活機能が失われてしまうことは言うまでもありません。

このように考えれば、病気のデパート、病気の源、病気の蛇口とも言える状態が糖尿病なのです。さらに、新しいデータでは、糖尿病患者さんは認知症になりやすい、ガンになりやすいことが明らかになっています。「尿に糖が出てしまった」「血糖が上がってしまった。」ですまされる状態ではないのです。

この糖尿病が急激に増加していることに、国は危機意識を持ち、様々な対策を講じています。岐阜県医師会でも、糖尿病対策委員会を設置し、糖尿病を減らすための協議を続けています。恵那、中津川地域でも、糖尿病地域連携委員会が設置され、両市の行政、恵那保健所、恵那医師会、恵那中津川の各歯科医師会、栄養士会、薬剤師会が結集し、糖尿病対策を考えています。先頃開催された市民公開講座もその一端です。

「糖尿病連携手帳」は、こうした活動を支える重要なキーワードであり、

全国で普及が進められています。岐阜県医師会も普及に力を入れています。皆さんがこの医療機関、あるいは歯科医院を受診されても、ノートがあれば皆さんの健康状態がわかります。薬剤師さん、栄養士さんも、ノートがあれば指導がしやすい。また、合併症のチェックでどこが抜けているかもわかり、進行を未然に防ぐこともできます。何よりも、皆さんご自身が、自分の健康状態を把握することができます。

さらにもう一つ、重要なことがあります。東日本大震災の時、患者さんの診療記録が失われ、治療が大変困難になりました。どんな薬を飲んでいたのかもわからない。でも、ノートがあれば、どんな状態でもどんな薬を服用されていたのかわかったのです。このように考えれば「糖尿病連携手帳」は皆さんの健康を守るお守りと同じです。

ちなみに、私は訪問診療などごく特殊な方を除き、「糖尿病連携手帳」を344名の方にお渡ししています。中には持参することを忘れられている方もいます。「糖尿病連携手帳」を大事にして下さい。



連載 医師のひょうげん

内科 高塚直能

「アイスバケツチャレンジ」

多分、この文章が皆様の目に触れるときには、すたれていると思いますが、平成26年8月下旬、頭から氷水をかぶっている世界の著名人らの映像が、テレビやインターネットで流れています。これはアイスバケツチャレンジというチャリティイベントで、指名された人が筋萎縮性側索硬化症(ALS)という難病の米国協会に、100ドル(約1万円)を寄付するか、もしくは24時間以内に氷水をかぶるかを選択し、次いで別の3名を指名するというものだそうです。

インターネットのニュースなどによると、企業家やスポーツ選手、芸能人など著名人たちは、氷水をかぶりながら寄付もするケースが多いそうで、米国ALS協会のホームページを見ると、8月23日の時点で62.5万ドル(約64億円)の寄付金が集まったそうです。前会計年度の寄付総額が8.4万ドル(約8.6億円)ですので、す

でに約8倍もの寄付を集めていることになりました。

氷水かぶりは、指名に次ぐ指名で世界中に拡散しており、最終的に今年の寄付総額がいくらになるのか見当もつきません。これは、皆様もご存じのとおり、ネズミ算式にて、最初の1人から3人、次は9人(3の二乗)、次は27人(3の三乗)、・・・と、その総和の人数はどんどん増えていきます。最初の1人を第1世代とすると、第5世代までの総数は121人、第10世代までの総数は約3万人、第20世代では、なんと約17.4億人、22世代では、現世界人口72億の倍を超える約157億人となります。

ルール通りであれば、始まってから3週間以上は経過している現時点で、世界中の全ての人々が氷水をかぶるか100ドルを寄付しているはずなのですが、実際にはそこまで広がっているわけではなようです。寄付行為自体は立派なことと思いますが、短期間に多くの人に働きかける仕組みとしては、所謂ねずみ講や不幸の手紙と

同じなので、最近では次を指名しないという人も出てきているということに、むしろ「世の中健全だなあ」とも思います。今回のことでALSの知名度が上がり、それだけでも成功といえるのかもしれませんが、広がるのが速い分、終息も早く、寄付金の増加も一過性で終わってしまうかもしれません。事業の持続性に吉となるのか凶となるのか、今後を見守りたいと思います。

さて、話は変わりますが、我が国の医療や介護や年金などの社会保障に、税金や社会保険料から給付される額が110兆円(平成25年度予算ベース一人当たり85万円程度)を超え、増加中です。さすがにねずみ講式とは違いますが、今後もこれらの社会保障を必要とする高齢者が増えるため、毎年3〜4兆円の増加が見込まれています。社会保障論に詳しい鈴木亘氏(学習院大学経済学部教授)の著書などを読むと、来年度10%に引き上げが予定されている消費税の増収分を充てても「焼け石に水」

とのこと。こちらは氷水をかぶって回避するというわけにもいかず、当面の財源をどう工面するかに加えて、少子高齢化のもとではないと思われる、現在の若い世代が現在の高齢者の社会保障費を負担するという現行の仕組みから、持続可能な仕組みへの転換が早急に望まれます。

「高山院長 講演会」のお知らせ

お知らせ

平成26年9月27日(土)坂下病院院長 高山哲夫先生の講演会があります。

≪テーマ≫

「糖尿病をめぐる話題提供と

927(くにな)らない健康づくり」

誰でも参加できる講演会です。参加費無料です。皆様の多数のご参加をお待ちしています。

- ・日時…平成26年9月27日(土曜日)
- ・開始…13時30分(開場12時30分)
- ・場所…中央公民館ホール
- ・入場料…無料
- ・参加対象者…だれでも



新連載 病院めぐり①

2年程前まで連載していましたが「病院めぐり」が復活しました。坂下病院の各科を順番に紹介していきます。第一回の今回は「リハビリテーション技術科」です。

「リハビリテーション技術科」

坂下病院リハビリテーション技術科は、理学療法士7名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、看護補助者1名という職員構成です。現在は、理学療法士1名と作業療法士1名が、訪問看護ステーション「ほほえみ」にて訪問リハビリを行っているため、病院内で活動しているスタッフは10名となります。

坂下病院は「地域包括ケア」

に力を入れています。リハビリテーション技術科でも、地域の皆様のニーズに応えられるよう、乳幼児から高齢者の方まで幅広く対応できるよう、研修会に参加したり、皆で情報を共有できるようにリハビリテーション技術科内での伝達講習会などを行っています。



また、「地域包括ケア」の一貫

として、院内業務だけではなく、院外での活動にも力を入れていきます。現在は、訪問リハビリはもちろん、中津川市内の発達支援センターへ出向しての小児リハビリ、中津川地域でのリハビリ教室、中津川地域および木曾地域での施設訪問リハビリ等を行っています。

その中でも小児リハビリは、年間に120回以上の出張回数となっています。院内に不在となることがあり、ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。現在、国の方針で、リハビリ

テーションに「上限日」が設けられています。そのため、長期間のリハビリが難しくなっています。

リハビリテーションを続けていきたいと考えておられる皆様に、ご迷惑をかけることも多くなってくるかもしれません。不明な点や、疑問に思うことなどがありましたら、できる限りの説明と対応をさせていただきます。と考えていますので、気軽にリハビリスタッフまで声を掛けてください。



連載 看護部便り⑨

「お知らせです」



看護師の就職支援セミナーを開催します。

- ・とき：平成26年10月18日(土) 午前10時～12時
- ・ところ：国保坂下病院 大会議室(2階)

看護師・准看護師の資格を持っている人で、もう一度看護職として働きたいと考えている人を対象に、医療・看護の現状の紹介や相談にお答えし、就職を支援するものです。

- ・仕事と生活の調和を実現するための取り組みをはじめています。
- ・子どもさんと一緒に来ていただいても良いです。

ぜひ、お気軽にご参加ください。10月14日までに申し込みをしてください。

*詳細はお問い合わせください。

〈問い合わせ・申し込み先〉

国保坂下病院 看護部長室

松本・吉村

電話：75-3118

連載 四季の画

坂下病院 花暦



今月の花：(ヒマワリ)

ヒマワリ(向日葵)は、キク科の一年草。ニチリンソウ(日輪草)と呼ばれることもある。種実を食用や油糧とするため、あるいは観賞するために広く栽培されている。夏の季語でもある。花言葉は「私はあなただけを見つめる」。

花卉は大きな一つの花のように見えるが、実際は頭状花序(とうじょうかじよ)と呼ばれ、多数の花が集まって一つの花を形成している。

原産地は北アメリカ大陸西部と考えられており、紀元前からインディアンの食用作物として重要な位置を占めていた。



季節の画を提供して下さる三浦貞夫さんは木曾郡南木曾町立在住。現在もリハビリをしながら絵を描き続けており、その作品はリハビリ室前の廊下にも掲示しています。

職員募集！ 看護師・准看護師

坂下病院で勤務していただける方を募集しています。

看護力が、この地域の住民の皆様を支えます。

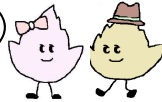
- ・60歳未満の方、性別は問いません。
- ・勤務時間など相談に応じます。

ご連絡をお待ちしています。

連絡先：0573-75-3118（内線210）

松本看護部長
吉村副看護部長

お待ちしております



＊ 坂下老人保健施設でも、看護師、准看護師、介護職員の募集を行っています。

☆ お 知 ら せ ☆

催し物	日 時・場 所	内 容
糖尿病食試食会	9月 2日（火） 9月 16日（火） 午前 11時～3階食堂	予約：坂下病院栄養科（内線164） お電話でおねがいします。 会費：310円（食材費）
ふれあい健康塾	来年より開催予定です。	

☆坂下病院各科診療表 診療状況により予約時間どおりには受診できない場合があります。予めご了承ください。
(平成26年9月現在) 予約変更などのお問合せは、平日午後2時以降に各科受付窓口へお願い致します。

診療科目	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科	第一(予約)	高山	酒井	高山(午前)	高山(午前)	酒井
	第二(予約)		近藤【呼吸器】	伊藤(午後)	高塚	田口【呼吸器】午後
	第三(予約)	信太(午前)	村瀬	信太		高塚(午前)
	新患外来	酒井	高塚	伊藤	信太	高山
	午前内科		大野【神経内】第3			佐橋【神経内】第1.3
	午後診療特殊			井上【漢方】第2.4 13:00～ 青木【腎臓】隔週		渡邊【腎臓】隔週
	午後診療	高塚	高塚	高塚	酒井	信太
外科	第一	横井	保坂【血管外科】			成田(第2) 田畑(第4)
	第二	近藤	近藤	近藤	近藤	水野
整形	第一	小嶋【リウマチ】	草野	小澤	草野	草野
	第二	矢野	赤根	矢野	矢野	山下
小児科	杉本	杉本	杉本	杉本	杉本	杉本
眼科	木下 受付11:00まで	木下	木下 受付11:00まで	木下	木下	木下
泌尿器科	渡邊			山田 第1.3.5 青木 第2.4	深津	
耳鼻咽喉科	小川	西村	清水	矢野原	稲川	
皮膚科			伊能 第1.3.5 松本 第2.4			
脳神経外科				大須賀 14:00～		
婦人科				浅井 第1.3	萬羽(午前)	